

公開講座ダイジェスト2018

跡見学園女子大学公開講座の記録



ATOMI
UNIVERSITY

公開講座ダイジェスト 2018 跡見学園女子大学公開講座の記録

刊行にあたって

跡見学園女子大学は昨年度に心理学部を創設し、4学部2大学院研究科からなる中規模女子大学となった。これに伴い、多様な分野をカバーする教員の存在が、今年度の公開講座で従来になかった企画を可能にしたともいえる。

ヨーロッパでは、「都市に大学があり、大学の中に都市がある」と言われている。都市に大学があることによって、世界中から人が集まり、そこに文化と学問が花開く。また、そこで生活する人たちに文化と学問が日常的に享受されるから、大学の中に都市があるとも表現されることになる。イギリスのオックスフォードやケンブリッジに滞在すると、そしてフランスのカルチェラタン通り等に行くと、このような都市と大学の関係がよく分かる。

大学はアカデミックな知を地域社会に還元し、その交流を通じて教育や研究の内容をより豊かなものにしていかなければならない。今後、大学の公開講座はその対象を限定することによって、1)従来の公開講座、2)退職後の生き方をサポートするセカンドステージ教育、3)学び直しと再就職と希望する人たちをサポートするリカレント教育といったように多様な展開が求められている。

リカレント教育の一つに、就業と家庭が両立できず、結婚や出産を契機に退社した女性達の学び直しと社会復帰の分野がある。これは、日本女性のM字型就労といわれるものである。この女性達へのリカレント教育は、今後女子大学一般に求められる社会連携活動、あるいは卒業生に対するサポート事業といった形でより発展していくものと思われる。

跡見学園女子大学でも、従来の公開講座をベースにしながらも、公開講座のセカンドステージ、サードステージの展開が求められている。他方で、次年度はさらに魅力的なテーマを模索し、公開講座の一層の進化を図るべく努力している次第である。

平成31年3月

跡見学園女子大学

学長 笠原清志

CONTENTS

刊行にあたって	跡見学園女子大学 学長 笠原 清志	1
春期教養コース（新座キャンパス）	心理学が教える幸せのヒント	3
1. 「コミュニケーション」がひも解く幸せのヒント	本学心理学部臨床心理学科准教授 酒井 佳永	
2. 「ことば」がひも解く幸せのヒント	本学心理学部臨床心理学科講師 前場 康介	4
3. 「記憶」がひも解く幸せのヒント	本学心理学部臨床心理学科講師 新井 雅	
春期教養コース（文京キャンパス）		6
20世紀末の観光を回顧するーテーマパーク、聖地巡礼、世界遺産ー		
1. テーマパーク編 浦安市民熱望の“夢の国”誕生秘話	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功	
2. 聖地巡礼編	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 松坂 健	7
3. 世界遺産編	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 種田 明	
秋期教養コース（新座キャンパス）		9
文化の再発見ー生活環境における芸術・芸能・習俗ー		
1. 身にまとう芸術文化	本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 深町 浩祥	
2. 信仰と芸能文化	東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL） 特任研究員 清水 康宏	10
3. 食卓からみる習俗文化	本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 天海 弘	
秋期教養コース（文京キャンパス）	映画の中の、もうひとつの人間関係	12
1. 黒澤明作品に描かれた実人生の子弟関係	元キネマ旬報編集長 植草 信和	
2. 映画と女優、そしてファッションデザイナー	本学文学部現代文化表現学科教授 富川 淳子	13
3. 高畑勲、宮崎駿と東映動画の仲間たち	本学文学部現代文化表現学科講師 渡邊 大輔	14
語学コース		15
英会話	春期責任講師：本学文学部人文学科准教授 西田 晴美 秋期責任講師：本学文学部人文学科准教授 峰松 和子	
中国語会話	責任講師：本学文学部人文学科准教授 安本 真弓	16
朝鮮・韓国語会話	責任講師：本学文学部コミュニケーション文化学科講師 吉田 さち	18
パソコンコース	春期（新座）講師：元本学文学部人文学科教授 福田 博同 秋期（文京）講師：本学兼任教員 柴田 徹	20 21
受講生からのレポート		24
資料		29

公開講座春期教養コース（新座キャンパス）
心理学が教える幸せのヒント
平成30年5月19日～6月2日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉本学心理学部臨床心理学科講師 前場 康介

今年度の春期公開講座教養コースは、『心理学が教える幸せのヒント』を大テーマとして、“「コミュニケーション」がひも解く幸せのヒント”（酒井准教授）、“「ことば」がひも解く幸せのヒント”（前場）、および“「記憶」がひも解く幸せのヒント”（新井講師）、合計3つの観点から講座を行った。それぞれの講座テーマは、いずれも心理学領域において重要な意義を有するものである。

第1回目のコミュニケーションを扱った講座では、相手に対するアクティブな表現やアサーションなどの観点から、それぞれの対人関係における様々なレベルでのコミュニケーション方法について、具体例を交えながら概説した。第2回目のことばを扱った講座では、人間が有する対称性（物の名称と言葉の相互的な結びつき）に焦点を当て、悩みが生まれる原因とその解決方法について、簡単なワークを交えながら実践的に概説した。第3回目の記憶を扱った講座では、自己の体験に関わる思い出（エピソード記憶）の総称としての自伝的記憶に焦点を当てながら、その記憶の肯定的な側面を活かすことが自身の資源につながることにについて、グループワークを通して概説した。

いずれの講座内容も、受講者の皆様にとって実感しやすいテーマであったため、関心が高く、概ね好評を得ることができた。心理学における様々な知見を、より身近に感じていただくことができたように思う。一方で、各講座におけるつながりや、「幸せ」にどのように結びついていくのかがやや不明瞭であったという点も否めない。今後の講座においては、このような反省点を踏まえ、より良い内容となるよう努めていきたい。

〈第1回 5月19日〉

「コミュニケーション」がひも解く幸せのヒント

本学心理学部臨床心理学科准教授 酒井 佳永

講義では、まず心理学において「幸せ」がどのように定義され、どのように評価されてきたかについて解説した。また先行研究で示されてきた「幸せ」と関連する要因について解説し、「幸せ」にある程度の経済的な余裕は必要であるが、「幸せ」と「経済的な豊かさ」は必ずしも直線的な関係にあるわけではないこと、「自分自身をどのように捉えているか」「他人とどのように関わっているか」、すなわち自己知覚と対人関係が幸せと関連していることを述べた。

心理療法には、対人関係に注目し、その質を改善することにより、心の問題を解決しようとするいくつかのアプローチがある。講義では、その代表的な例である「心理療法の改善に効果があることが報告されている「対人関係療法」および「アサーショントレーニング」をヒントに、身近な他者との関係におけるコミュニケーション改善の工夫について解説した。

対人関係療法では、対人関係を第1層から第3層に分類する。第1層とは、特に重要な他者であり、結婚している場合は通常パートナーがこれにあたることが多い。第2層は「友人」、第3層は「職場の知人」など役割のみで関わる関係である。対人関係療法では第1層の他者との関係を重視し、相互の期待のズレ、コミュニケーションのズレなどを検証する。アサーショントレーニングでは、自分自身のコミュニケーションの特徴について「受動的」「攻撃的」「アサーティブ」という観点から分

析し、自分自身の気持ちや権利を大切にしながら、相手の気持ちや権利も大切に「アサーティブ」なコミュニケーションを目指す。講義では、これらの心理療法の理論を解説すると共に、参加者自身が自分についてアセスメントできるシートや、技法の一部を体験できるシートなどを用意し、実際に体験していただくことにより、自分自身の対人関係のありかたを把握することができ、またコミュニケーションの工夫がどのような効果をもたらすかについて体験的に理解できるよう工夫した。

〈第2回 5月26日〉

「ことば」がひも解く幸せのヒント

本学心理学部臨床心理学科講師 前場 康介

今年度の春期公開講座教養コース『心理学が教える幸せのヒント』において、“「ことば」がひも解く幸せのヒント”を担当した。当日は多くの参加者にご来校いただくことができた。

この講座では、人間の「ことば」がどのような心的事実を創り出すのか、またそれによってどのような悩みが生まれてしまうのか、を主なテーマとした。ことばは我々の生活やコミュニケーションにおいてなくてはならないものであり、かつその影響は多大なものである。人間の種々の思考や行動につきものであることばに焦点を当て、その影響とうまく付き合うための方法について解説した。

具体的には、まず最初に、ものの名称をイメージするだけで、あたかもそのもの自体が頭の中に存在するような感覚を持つことを体験していただいた。そして、このような感覚がいかにして生じるのかについて、ことばと事物との対称性という観点から理論的な概説を行った。このような対称性は人間に特有の能力と考えられており、そのために「悩み」が生じることについても説明を加えた。

ことばに囚われることによって生じる悩みは、しばしば出口のないものになってしまう。講座の後半部では、このような囚われからいかに脱却するかについて、言語学やマインドフルネス、アクセプタンス&コミットメントセラピーの観点から、具体的なワークを複数交えて解説を行った。

理論としてはやや難解な内容であったものの、ことばという身近なテーマを扱ったことで、受講者の皆様からは概ね好評であったようだ。一方で、講座内容と日常体験との乖離を感じる方も一定数いたようである。また事務的なことであるが、内容をメモするための用紙を準備するなど、反省点もいくつか考えられた。

〈第3回 6月2日〉

「記憶」がひも解く幸せのヒント

本学心理学部臨床心理学科講師 新井 雅

人はこれまでの人生の中で、様々な体験・エピソードを「記憶」している。思い出して幸せな気持ちになる記憶もあれば、あまり思い出したくないような記憶もあり、以前は不快だと思っていた苦い体験が今では“良き思い出”だと感じる場合もある。これらの記憶はどれもが人生を豊かに生きていくための大切な資源となり得るものである。

本講座では、自己の体験に関わる思い出(エピソード記憶)の総称としての自伝的記憶について紹介し、多種多様な生活経験を通して、一人ひとり様々な自伝的記憶が蓄積されていくこと、それらは自分自身が何者であるかという点や自分自身の生き方につながるアイデンティティとも関連する重要な要素となることを解説した。また、自分自身にとって重要な自伝的記憶を思い出し、大切にすることで、アイデンティティそのものにも肯定的な影響が生じ得る可能性が、各種の心理学研究から指摘されている。そして、生きていく上で大

切にしていることや、自分らしい生き方を支えている視点や考えについても、それらの形成に寄与した様々な体験が存在し、特に安心感や安全感を感じられるような自らの肯定的な自伝的記憶を振り返ることの重要性について説明した。

さらに、日々の生活の中で、人は様々な苦勞や困難を抱えるものである。それらのストレスを抱えつつ日々の生活を前向きに送っていくためにも、上述した肯定的な自伝的記憶が有用となり得ることが指摘されている。困難な事態や状況がありながらも、自分らしく生きていくためには、これまでに体験してきた自らの肯定的な記憶を想起すること、すなわち自分自身の中にある力（資源）を確認することが役立ち得ることが少なくないのである。

本講座では、上述の内容に関わる説明および、それらの記憶を手掛かりに幸せに生きるためのヒントについて解説しつつ、簡便なワークシートを用いてそれらを体験できるように実施した。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）

20世紀末の観光を回顧するーテーマパーク、聖地巡礼、世界遺産ー

平成30年6月23日～7月 7日（毎週土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功

今回の春期公開講座教養コースは、20世紀末に注目を集めた観光対象を基軸に観光コミュニティ学部観光デザイン学科の各々経歴、関心分野が微妙に異なる教員3名が各1テーマを分担、全3回実施した。

初回の小川功は、「浦安市民熱望の“夢の国”誕生秘話」と題して市民と金融人双方からみた巨大テーマパークができるまでを回顧した。

第2回はミステリや映画に造詣の深い松坂健が昨今の行政主導型「聖地巡礼」ブームに警鐘をならす意味から「ゼロの焦点」など自身が大好きな松本清張作品を例に国内外の「聖地」多数を紹介、巡礼者たる熱心なファンが自発的・能動的に作品に登場する聖なる現場を踏んで自らの最初の感動を再認識すべきものと熱く語った。

第3回は、産業遺産を専門領域とする種田明が日本が本格的に世界遺産登録に力を入れ始めた1990年から、観光庁が発足した2008年まで世界遺産ブームの軌跡を振り返り、石見銀山から立山砂防までの多数の登録済・推進中の世界遺産の事例を豊富な画像とともに詳しく紹介した。

各教員とも今回が本学公開講座での最後の登壇となることもあって、“最終講義”並に肩に力が入り、これまでの研究を総括する意気込みで臨んだ。その結果、文章では紹介でき兼ねる秘話の類も思わず飛び出した場合もあったようだ。ごく一部の若い層以外はご年配の方々が多かったため、各回に共通する昭和の高度成長期の実体験を語る回顧談（同時に各教員の自分史部分と重なる訳であるが）は熱心な教室の雰囲気からも概ね好評であったと解され、総じて「思わず旅に出たくなった」と昭和レトロ“旅”を誘発したり、聖地、

TDL、世界遺産など「内容が盛り沢山で、時間がもう少しほしかった」といった声も聞かれた。また本来多様性を有する「聖地巡礼」をアニメの専売品と解した方もおられたようだ。

昭和が遠くなり、やがて平成も消えてゆく中、3名の永年の諸体験を凝縮させた証言を多数の熱心な受講者各位の前で自らの肉声・画像・レジメ等の形で同時進行的に残せたことは、業界紙等での紹介も生むなど相応の意義があったものと自己評価している。

〈第1回 6月23日〉

テーマパーク編

浦安市民熱望の“夢の国”誕生秘話
本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 小川 功

なぜ浦安なのかーそこに空き地があったから…といった地元目線で、一市民・一金融人として見詰めて来た巨大テーマパーク形成を回顧した。報告者個人としては前年度の本講座で取り上げた昭和40年代前半の日本列島の旅（日本一周、復帰前の沖縄、大阪万博）の続編との思いもあった。まず報告者自身の自分史として幼くして私鉄系遊園地・阪神パーク・宝塚に親しみ、高校で悪評紛々の奈良ドリームランドに遭遇するなど、テーマパークとの関わりから始めた。若手サラリーマンとして過ごした時代、勤務先の金融機関と京成電鉄との奇縁で空き地だらけの広漠たる埋立地・浦安に在住したお蔭で市民招待日に念願の開園に立ち会った。

水質汚染等で漁業権放棄を決断せざるをえなかった裏寂しい漁師町の地域再生の核とな

る常設万博のような集客施設が求められ、町議会の視察団は米国トップに地域挙げての誘致の熱意を直接伝えた。親会社筋の足並みの乱れで停滞中の交渉に地元が活を入れた効果が出て日米両社は基本合意に達し、以後浦安は周知の通り劇的に変貌を遂げた。

日本の観光業界にとっての“黒船”到来であった開園当初のパークは“和食厳禁”“完全予約”などピュアな舶来スタイルを全面に押し出し、米国流に馴れぬ庶民をも困惑させた。開業時“進駐軍”さながらの原理主義者との様々な軋轢と葛藤を経て、いつしか日米間の異文化交流と融合がはかられ、近年では企業トップの口から「和の心」まで飛び出すまでに変化した。

その他講義では京葉線駅名は何故「ランド前」駅でないのかなど軽い話題も適宜取り上げたが、「テーマパークの知られざる歴史を聞いた」とのお声の一方、ついつい「話題が多岐に渡り」すぎた反省点もあった。

〈第2回 6月30日〉

聖地巡礼編

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 松坂 健

「聖地巡礼」とは、自分が気に入った文学や映画、あるいはアニメなどにゆかりの土地の実際を見にいくツーリズムのこと。ある種の目的を明確にして、それを実践するための旅ということで、それを広く包括的に表現するとコンテンツ・ツーリズムになるのだが、この聖地巡礼は、昔からあったものの、1990年代以降のアニメブームに後押しされる形で、若者中心に旅の重要なコンテンツになってきたものだ。

この講義ではブームのきっかけとなったものを2009年公開のアニメ『サマーウォーズ』（信州上田が聖地）に求め、最初は自発的に集まっていた若者たちの動きを、やがて行政

がマップやグッズなどを作るなどして町おこしとしていった経緯を語った。

しかし、そういう名作の背景を自分も実際に見て、雰囲気を感じたいという旅の動機は、はるか昔からあって、講師はひとつの典型を松本清張のミステリブームとし、主に能登金剛がクライマックスになった『ゼロの焦点』とツーリズムの関係を論じた。

清張の作品は日本が経済的に豊かになっていくと同時に、一般庶民の移動の頻度も距離ものび、それがミステリの「謎」を深めていく効果があり、その後の代表作『張り込み』『砂の器』などにも言及した。

聖地巡礼ツーリズムは国境をまたがることもあり、その事例を中国映画空前のヒットといわれる『狙った恋の落とし方』で喚起されたロケ先である阿寒湖をはじめとする道東観光のインバウンドにも触れた。

また、話が個人的なものになるが、聖地巡礼ツーリズムの一例として、講師自身が行った英国の旅の旅程を詳しく披露した。これにより、もともと聖地巡礼がきわめて個人のテーマ（趣味・嗜好）を生かしたもので、これがマスツーリズムから脱しつつある21世紀の旅の源流のひとつとなっていることを指摘して、論考を閉じた。

〈第3回 7月7日〉

世界遺産編

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 種田 明

第3回は1990年ごろ～2008年（観光庁発足）頃までの、世界遺産に関連する文化財保護、観光形態の変容、観光立国へ離陸していく日本社会・世界の状況を概観・解説した。

日本の世界遺産条約（WHC=World Heritage Convention 1972）批准の遅れの一因には、欧米の「記念物(Monument)」と日本の「文化財」の概念の違いがあった。加えて、建造物の素材

が石であるのと木材・土・竹・紙であるとの違いがあった。また古社寺保存法(1897)、史跡名勝天然記念物保存法(1919)、国宝保存法(1929 のち文化財保護法 1950)、国立公園法(1931 のち自然公園法 1957)、古都保存法(1966)などの法制がすでに整っていたことも。

1968年には文化庁が設置される一方、官民に「妻籠を愛する会」、金沢市伝統環境保存条例、倉敷市伝統美観保存条例制定などがすすみ、翌年には奈良井宿保存会(長野)、よみがえる近江八幡の会(滋賀)など、70年代以降各地に市民・住民運動や自治体の条例陸続による文化遺産保護の気運があった。

こうした背景の下、1990年頃「世界遺産条約」を認知していた日本の政・官・民(観光・マスコミ)関係者は自然保護団体を除くとごく少数だった。90(平成2)年、文化庁は都道府県別の「近代化遺産総合調査」を開始した。92年、国会が「世界遺産条約」を批准するや世界遺産は一気にブームとなり、観光対象として重要性を増していった。94年イコモス奈良文書で“文化的景観、20世紀建築、産業遺産”が新たな遺産カテゴリーに加えられ、「世界の記憶」(95)「世界ジオパーク事業」(01)「無形文化遺産」(03)などのユネスコの文化施策・事業と観光は、軌を一に発展してきたと言っても過言ではなかった。

90年代観光形態は物見遊山・周遊型の団体旅行から“学ぶ／楽しむ・体験する・交流する”グループ・家族・個人旅行へと変わった。世界遺産は学ぶ対象として、正しく時宜を得たものであったし、ICT(情報技術)・SNSの進展、エコツーリズム(ルール遵守・公認ガイド)の推進など、「失われた10年」の空白を埋めた一つが観光であった。

日本の瑕疵は、石見銀山登録時(2007年)に‘記載延期’内示をロビー活動で‘記載’決定へと覆したことであった。世界遺産委員会に‘政治(的配慮)’が色濃く出始める先鞭を

付けたのである。パレスチナをめぐりイスラエルとアメリカが「2018年末ユネスコ脱退」を表明していることの方がより深刻ではあるが。
[この後DVD上映(14分)・質疑応答で終了。]

DVD 『立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産～』2017年<立山砂防の世界遺産登録推進アニメ映像>、制作・富山県世界遺産登録推進事業実行委員会

公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

文化の再発見 ―生活環境における芸術・芸能・習俗―

平成30年10月13日～10月27日（毎週土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 深町 浩祥

日々の生活を取りまく環境から発せられているメッセージを、私たちはどれほど認識しているのか、という問いから本講座のテーマが設定された。目にするもの、触れるもの、聞くもの、味わうものなど、忙しい毎日においては情報処理速度をあげるため、できる限り素早く物事を判断することが現代社会では求められているように思える。そこで本講座では、一度立ち止まり、何気ない生活環境に隠されていたメッセージをじっくりと読み解くことで、“文化”を再発見することを試みた。

文化の英訳の culture は、「耕す」を意味するラテン語 colere に由来し、「土地を耕す」という意味から「心を耕すこと」に転じ、そこから「教養」も意味するようになった。また、culture の文頭にある cult は祭儀、儀式、崇拝を意味する。このような由来から、文化とは人間の生活様式・慣習の全体として捉えることもでき、特に哲学・芸術・科学・宗教などの精神的活動を意味することもある。

今回の講座では、文化の慣習的な面と精神的な面、双方に目を向けながら、芸術（衣服）、芸能（信仰）、習俗（食）という3つの分野を選択した。

第1回の「身にまとう芸術文化」では、私たちが毎日身につける衣服や、装身具などをとりあげた。それら身にまとうモノたちに隠された、芸術的なメッセージを明らかにした。

第2回の「信仰と芸能文化」では、日本の神々が登場して舞を披露する「神楽」をとりあげた。神社で行われる宗教儀礼、また、民俗芸能としても楽しまれている神楽における儀礼と芸能の“境界”を考察し、その背景にある諸事象を明らかにした。

第3回「食卓からみる習俗文化」では、習

俗文化の象徴として家族で囲む食卓をとりあげた。家庭の食文化の変遷、食卓形式の変化と食材自体の変化から、家族や生活の背景について考察した。

受講後のアンケートでは、受講生の方々から貴重なご意見を多数いただいた。今後の励みとするとともに、あらためて感謝申し上げたい。

〈第1回 10月13日〉

身にまとう芸術文化

本学マネジメント学部

生活環境マネジメント学科准教授 深町 浩祥

私たちは、毎日何かモノを身にまどっている。衣服だけでなく、靴、時計、メガネ、スマートフォンなども含めてさまざまなモノが私たちをつつんでいる。それらのモノを通して、私たちは周りの人々に印象（メッセージ）を与えている。自分が身につけているモノに私たちはどれほど意識を向けているであろうか。また、周りの人々や身の回りの世界が発しているメッセージをどれほど意識できているのであろうか。本講義では、身近な題材を扱いながら、身にまとうモノに隠されたメッセージを明らかにした。

デザインの要素として色、柄、質感、機能などがある。さらにそのデザインの源泉としては、さまざまな時代、地域、民族などの生活文化が参考にされている。

まず初めに、隠されたメッセージを読み解く題材としてロゴマークをとりあげた。ロゴマークには企業理念が込められている。例えば、通信会社のブランドロゴ、また、コーヒーストアのトレードマークについて、どのよう

なメッセージが発信されているのか、みなさんとともに考えた。続いて、色や柄が持つメッセージの事例として、ネイビーブルーやチェック柄、さらにストライプ柄が持つ歴史的経緯や文化的意味を紹介した。

続いて、芸術作品と日常生活について考察した。私たちは芸術作品や芸術家の思想に、普段の生活の中で触れていることに気づいていないのかもしれない。画家ジャクソン・ポロックのアクションペインティングを想起させるデニムのパンツやスカート、現代美術家マグダレーナ・アバカノヴィッチの作品とマルタン・マルジェラのファッション・デザインとの比較など、前衛や社会問題を作品化する現代美術家の思想の影響が、服のデザインの中から読み取れる事例を紹介した。

以上のほか、テキスタイルデザインに込められたメッセージなどを紹介し、私たちは、日常生活の中で、無意識的に芸術文化に触れているということを再発見する機会とした。

〈第2回 10月20日〉

信仰と芸能文化

東京大学附属図書館アジア研究図書館

上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL)

特任研究員 清水 康宏

2004年、熊本市現代美術館の「生人形と松本喜三郎」展では、展示された仏像に多くの賽銭が置かれる“事件”があった。仏像は美術館のなかでは「美術品」となり、お寺のなかでは「信仰の対象」となる。“事件”はこの二つの境界を揺るがした。

神社の祭礼で催される芸能はどうか。神楽は祭礼の一部として見れば「信仰儀礼」だが、それだけで「民俗芸能」としても楽しまれている。そこにも仏像と同じように「宗教」と「芸術／芸能」との境界を揺るがす問題があるだろうか。

1975年、文化財保護法は大改正された。そ

れ以前から民俗芸能は重要無形文化財に指定され得るものであったが、1966年、神社本庁は民俗芸能だけでなくそれを含む祭礼（信仰儀礼）も重要無形文化財なみに指定すべきと国に陳情した。全国文化財保護研究協議会でも、祭礼の「芸能的部分」のみを抽出して無形文化財とせず、「祭礼全体を無形文化財として扱う」ことへの要望が出された。文化庁は、祭礼の文化財指定が政教分離に抵触するおそれがあるとして要望を受理しなかった。これに対し、神社関係者を中心とした民俗文化財研究協議会は、祭礼がその「宗教的意義」ではなく「文化的意義」によって保護されるべきであると反論し、結果的に75年の法改正を実現させた。改正によって祭礼は民俗芸能とともに「無形民俗文化財」に指定されることになった。

仏像が二つの境界を揺れ動いたように、神楽などの芸能も、独立した「民俗芸能」か、「信仰儀礼」の一部かという議論が交わされていたのである。

昨今の仏像や神楽の人気を見れば、多くの人が信仰心というよりも、「美術品」としての仏像、「民俗芸能」としての神楽を鑑賞している。しかしそのような視点で宗教物を享受することが“本来”の信仰態度をないがしろにしている、というわけでは必ずしもない。「文化財」の時代を生きる私たちは、そのような享受の仕方でも「宗教的なもの」とつながり、心を豊かにすることができる。

〈第3回 10月27日〉

食卓からみる習俗文化

本学マネジメント学部

生活環境マネジメント学科准教授 天海 弘

食卓を講演テーマの起点とし人間にとっての食の意味を再定義し、日本における食卓の変遷と家族関係の変化を習俗文化の観点から振り返った。和食はユネスコの無形文化遺産

に登録されたが、日本人の食事の変遷と健康について考察した。最後に最近の食と健康に関するトピックスを2例（①健康長寿のヒント「1975年の食事」、②サルコペニアをさけるには）ご紹介した。以下、講演の概要を記す。

1. 人間と食

パスカルによる人間の定義である「人間は考える葦である」は、人間自体は矮小な存在だが考えることで宇宙を超えることを示している。ほかにも多々定義があるが、文化人類学者の石毛直道先生（国立民族学博物館名誉教授、元館長）は人間を「料理し共食する動物である」と定義された。このことは、食が単に生命維持だけではなく人間社会の絆であり、食を文化として扱うべきことを明示している。

2. 食卓の変遷と家族関係の変化

食の中心は家庭にあり、家族が食を囲む食卓は食のみならず家族の中心でもある。江戸から続くはこぜんは昭和初期からチャブ台に変わり、戦後の高度成長期に生活様式の変化に合わせて洋式テーブルへと変化していった。この変化の中で、食事のマナーも沈黙を原則とする形態から、家族が会話を楽しむ形態へと変わっていった。また、会話の中心も家長である父から母や子供へと移行し、食卓の変化だけが原因ではないが家族の在り方にも大きな変化をもたらした。

3. 和食は健康食？

和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたが、①多彩な食材、②健康的な栄養バランス、③自然や四季を大事にした表現、④年中行事とのかかわりといった特徴がその理由とされる。しかし、戦前の食事はけっして栄養バランスに優れた食事ではなかった。偏った食事だけが原因ではないが、戦前では平均寿命は50歳前後であることもその傍証と考えられる。戦後の高度成長を経て旧来の和食に、動物性たんぱくや脂質など洋食的な要素を取

り入れ、食塩の摂取量を減らして新しい和食を創造したことが、現在の長寿社会を支える要因の一つといえよう。

公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）
映画の中の、もうひとつの人間関係
平成30年12月8日～12月22日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学文学部現代文化表現学科教授 富川 淳子

大学の研究分野としても確立されている映画は、趣味・娯楽としても広く愛されている文化でもある。実際、総務省の社会生活基本調査 2016 年によれば、「過去 1 年間に行った文化・芸術活動」の行動率は「映画館以外での映画鑑賞」が 10 歳以上の男女共においていちばん多く、男性は 52.6%、女性は 51.6%。2 位は「CD・スマートホンによる音楽鑑賞」だが、3 位には「映画館での映画鑑賞」があがる。また「映画館での映画鑑賞について年齢別年間平均行動日数」の調査では 1 位の 20-24 歳の 8.0 日に次いで、2 位は 65-69 歳の 7.3 日、3 位は 75 歳以上の 7.2 日、4 位 70-74 歳の 6.9 日と続く。テーマによって多少のばらつきがあるとはいえ、60 歳以上が 5 割を占める本講座の受講者は上記の調査結果に基づけば、映画に精通している人も多いと考えられる。

従って平成 30 年度秋期公開講座、教養コースのテーマを現代文化表現学科の主要研究分野の一つである映画としたが、映画通をも刺激する新しい切り口が必要であると思われた。そこで今回は「映画の中の、もうひとつの人間関係」とし、映画紹介の本流では語られることが少ない人間関係に焦点をあてた。

講座の第 1 回目の講師は映画専門誌『キネマ旬報』の元編集長の植草信和氏である。植草氏は黒澤明監督が文京区の小学校に通っていた時に出会い、「生涯の恩師」と監督自身が語る立川先生との関係を説明。黒澤監督の遺作となった映画『まあだだよ』には立川先生からの学びを主人公のセリフにしていることを紹介した。第 2 回目を担当した富川はデザイナーの森英恵氏関わった 1950 年代の映画作品を軸に女優の役柄と衣装の関係性につ

いて解説。第 3 回目は専門が日本映画史研究である本学の渡邊大輔先生が「高畑勲・宮崎駿をはじめとする東映動画のアニメーターたちの人間関係とジブリ作品」というテーマで第二次世界大戦中の満洲映画協会までさかのぼり、アニメ作品を紹介しながらの説明を行った。

講座後のアンケートでは「テーマに関する興味が深まった」との感想が 9 割以上を占め、本講座が映画に詳しい受講者も満足させた新しい発見を提供する機会になったことは何よりであった。

〈第 1 回 12 月 8 日〉
黒澤明作品に描かれた実人生の子弟関係
元キネマ旬報編集長 植草 信和

世界的な映画監督黒澤明は黒田尋常小学校で絵画の才能を認めてくれた立川精治先生を「生涯の師」と仰ぎ、自伝『ガマの油』で以下のように語っている。

「私の成長を助けたのは担任の立川精治先生である。立川先生は知能的に遅れ、変にいじけていた私に自信というものを持たせてくれた。それはある図画の時間のことだ。そのころの図画教育というのは事物(じぶつ)を真似させて、その手本に近いものが最高点を取るとい方針であった。しかし、立川先生はそんな馬鹿なことしない。ただ、好きなものを自由に描けと言う。

何を描いたかは覚えていないが、とにかく一生懸命に色鉛筆が折れるほどに力を入れて描いた。

立川先生は生徒が描き上げた絵を一枚一枚黒板に貼って、生徒たちに自由に感想を言わ

せた。私の絵の前では生徒たちはガラガラ笑うだけだった。

しかし立川先生は笑う生徒を恐れ顔で見まわして、私の絵を褒めてくれた。そして赤インクで大きな三十丸を書いてくれた。

自由で新鮮な感覚と創造的な意欲で教育に取り組まれた立川先生のような人と巡り合えたことは、私にとって無上の幸せだったと言わねばなるまい」

そして遺作『まあだだよ』では、立川先生の薫陶がいかにか素晴らしいものであったかを物語の中に織り込んで、以下のようなセリフを主人公の“先生”に語らせている。

「みんな自分の本当に好きになったものを見つけてください。見つかったらその大切なもののために努力しなさい。きっとそれは君たちの心のこもった立派な仕事になるでしょう」。

これは晩年の黒澤監督が語っていた言葉そのもので、立川先生から教えられたことを次の世代に何とか伝えたいと願う黒澤監督のメッセージが『まあだだよ』には込められている。

世界的な映画監督となった黒澤明は、作品を通して“師弟の絆”の大切さを最後まで訴え続けた芸術家でもあった。

〈第2回 12月15日〉

映画と女優、そしてファッションデザイナー 本学文学部現代文化表現学科教授 富川 淳子

正当な映画史の中でファッションの分野は無視されてきたといっても過言ではない。その中で唯一の例外は、映画公開後から半世紀以上たった今なお輝き続けるユーベルド・ジバンシーによるオードリー・ヘップバーンのファッションである。当然ながら日本映画界も女優のファッションが注目を集めることは皆無に等しいが、本講座では TV が普及する前の 1950 年代、日本映画全盛期に映画の衣

装を手掛けたデザイナー、森英恵の紹介を試みた。

森が衣装デザインを担当した映画は『太陽の季節』（1956 年古川卓己監督：日活）の南田洋子、『狂った果実』（1956 年中平康監督：日活）の北原三枝、『秋日和』（1960 年小津安二郎監督：松竹）の岡田茉莉子など 400 本以上に上る。森は 1970 年代には映画の仕事から離れ、世界を舞台に活躍するデザイナーになるが、著書の『ファッション—蝶は国境を超える』（岩波新書：1993）で次のように当時を振り返る。「白黒映画では、人間の性格やいろいろなキャラクターを洋服の形や動きで表現していたが、カラー映画になり、色で人間のキャラクターが表現できることを学んだ。赤は激しい色だとか、黄色は嫉妬深い色だとか。映画の仕事を通じて、色を実験し経験を重ねた。カラー映画に勉強させてもらったおかげで、後に 1965 年アメリカではじめてコレクションをしたとき、実に多くの色を使った。アメリカで仕事した 10 年間、まさに色で勝負したような気がする」。

その森から色によって役を作ることを学んだという篠田正浩監督は「衣装は人間の感情を表現するもの、しかし、バラエティ豊かな精神世界に比べて、人間のボディはそんなに変わるものではない。森さんはその退屈を耐え忍んで様々な人間の動きと形の関係をつかんだに違いない。様々な角度から人間を見つめなおすことを強られる映画製作の現場——松竹大船をファームにされた森さんは東洋のデザイナーとしていいスタートを切られたと思う」（『HANA E MORI 1960 - 1989』朝日新聞社：1989）と考察する。

映画監督、女優そして映画の現場を通して学んだことが世界的なデザイナーとしての活躍につながったということ結論とした。

〈第3回 12月22日〉

高畑勲、宮崎駿と東映動画の仲間たち

本学文学部現代文化表現学科講師 渡邊 大輔

本講座では、「高畑勲、宮崎駿と東映動画の仲間たち」と題し、アニメーション映画監督、宮崎駿と高畑勲の創作活動の出自となった「東映動画」の成り立ちから、日本アニメ史の知られざる歴史的経緯を、当時の作品群の鑑賞とともに浮き彫りにした。「スタジオジブリ」の設立者としても知られる宮崎と高畑は、日本最初の本格的なアニメーション企業である東映動画でアニメ製作を開始した。両者の手掛けるジブリ作品には労働者の相互扶助的な共同体のイメージが濃密に認められるが、それらは彼らの入社当時の東映動画内の左翼的な組合活動に由来する。

そして、本講座ではさらに、そうした東映動画の左翼思想的な文脈が、親会社の東映も含めた、戦中期に由来する左翼人脈・満洲人脈に由来するものであったことを跡づけた。戦中期、軍国主義化する国内での活動を制限され、満洲国（中国大陸）に渡っていた左翼系映画人たちが、戦後、多く東映及び東映動画に入社して活動していたのである。

以上のように、戦後日本のアニメ産業の出発点となった東映動画には戦中期の満洲国が関わっているが、これに加えて満洲国に設立されていた国策映画会社「満洲映画協会」（満映）では、もともと長編アニメーション映画の製作が計画されていたことを紹介した。満洲で胚胎されていた「アニメーションの夢」が敗戦・満洲崩壊によって、先の左翼人脈・満洲人脈を介して、戦後の東映動画に流入していくのである。その痕跡を、東映動画の長編第一作で、日本最初のカラー長編アニメーション映画となった『白蛇伝』（1958）を事例に確認した。なぜなら、『白蛇伝』は中国の民間説話を素材にしているアニメだが、ここには戦時中の中国民衆へのプロパガンダの目

的が残存しているからである。

そして最後に、そうした「満洲の記憶＝影」を、それから約半世紀後に作られたジブリの『風の谷のナウシカ』（1984）や『もののけ姫』（1997）などにまで見られることを解説した。

語学コース

春期:平成30年5月19日～7月21日(毎週土曜日)〈全10回〉

秋期:平成30年10月6日～12月15日(11月3日は除く)(各土曜日)〈全10回〉

英会話

〈春期講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 西田 晴美

(春期)

平成30年度春期公開講座語学コース(英会話)として「英会話中級」の2講座が、5月19日から7月21日までの毎週土曜午後に新座キャンパスで開催された。「英会話中級A」は、本学兼任教員のジョン・オリファント講師が、「Britain Past and Present; understanding contemporary Britain in the light of its past」という題目で、「英会話中級B」は、本学文学部コミュニケーション文化学科助教のコリン・マクラウド講師が、「Developing discussion skills by exploring global issues」という題目で担当した。「英会話中級A」は、受講者3名のうち修了者3名、「英会話中級B」は、受講者16名のうち修了者11名であった。両講座あわせて19名の受講者のうち14名から回答を得たアンケートの結果に基づき、以下に講座について振り返る。

両講座とも、開講時期、時間帯、回数、時間数などについては、大方の受講者が適切であると回答した。内容については、配布資料・スライドなどの量は適切であったとほとんどの受講者が回答していることから、講師による十分な準備の下、それぞれの講座がテーマに沿った豊かな内容を展開したようである。内容に関するコメントとして、「英会話中級A」では、楽しかった、「英会話中級B」では、内容は大変参考になった、興味深い内容であった、幅広いテーマを考えることが出来て知見が広がった、という意見が寄せられ、「内容に関して興味や関心が深まりましたか」という質問に対しては、全受講者から深まったとい

う回答が得られた。講座の進め方について、「英会話中級B」においては、ディスカッションの資料を事前に配布したことにより、ディスカッションそのものがスムーズに進んだようだ。さらに深めた内容を求める声もあり、アンケート回答者の全員が、「また本学の公開講座を受講したい」と回答した。一方講座の難易度について、難しかったという意見が両講座から寄せられており、今後このような声にどう向き合って講座を実施するか、次回に向けた課題となる。

〈秋期講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 峰松 和子

(秋期)

平成30年度秋期公開講座語学コース(英会話)として、10月6日から12月15日までの毎週土曜日午後、「英会話中級」2講座が新座キャンパスで開催された。「英会話中級A」は、本学兼任教員のジョン・オリファント講師が“The British Imagination; the work of British artists, writers and film makers that has had an impact on the world”と題して、「英会話中級B」は、本学兼任教員のパトリック・レイツ講師が、“What do you think?”と題して授業を行った。「英会話中級A」は受講者6名、修了者3名、「英会話中級B」は受講者17名、修了者10名であった。以下では、23名の受講者のうち8名から回答を得たアンケートの結果をもとに、講座について振り返りたい。開講時期、時間帯、講義時間などについては適切であるとの回答が大半であった。「英会話中級A」では、イギリスの文学、芸術、映画などを、「英会話中級B」では、日米のポピュラーカルチャーなどを題材とした講義とそれについての議論が行われ

た。両講師のコメントによると、参加者は積極的に英語でコミュニケーションを取り、熱心であったといえる。8名全員が「内容について興味や関心が深まった」と回答している。講座の難易度についての回答は、「英会話中級A」では「適切」が2名、「難しい」が1名、「英会話中級B」では「適切」が5名であり、難易度はおおむね適切であったと思われる。また6名が「配布資料やフライドの量が適切だった」と回答。本学公開講座受講は5名が「初めて」、3名が「4年目以上」と回答。リピーターの関心の高さがうかがえる。7名が「今後、本学の公開講座を受講したい」と回答。問題点としては、主に「バスの不便さ」を挙げ、交通手段に関する要望が主なものであった。自由回答欄では、「授業前の下調べのための課題」の要望や、「ディスカッション時間をもっと増やしてほしい」という受講者の前向きな姿勢も見受けられた。「楽しくなった」という講師に対する感謝の気持ちも示されていた。議論をしながら内容を深める参加型の英会話クラスに対する受講者の満足や期待が示されているといえる。

中国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 安本 真弓

(春期)

平成30年度春期の中国語公開講座は、昨年度に続きベテラン兼任教員の李振溪先生が務めた。授業の内容は、定番となる春の漢詩や歌、秋の散文などを読み込んでいたことと、受講生からのリクエストによるもの、例えば、中国の農業と農産物関連の言葉、中華料理関連の語句、中国のシルクロードと近隣諸国の言い方、中国の新聞記事（震災再建の話、及び防災グッズの中国語）などを指導していたこととで構成されていた。中には難しい内容

もあったが、指導時に簡単な会話レベルの用語を加えて異なるレベルの受講生にも自分なりの成長が感じられるよう工夫した。

今回の公開講座について、一つ目として、熱心な中堅メンバーが、講座第二週目頃の放課後に学食で茶話会を開催し、新入りの受講生がクラスに溶け込むように尽力していただき、非常にありがたく頼もしい存在であったこと。二つ目として、講座終了の間に近所のレストランに出かけ、お酒を飲みながら日中文化などに関する面白い話に花を咲かせて懇親を深めたこと。三つ目として、講座終了時のアンケート調査では、「他の中国語教室にも通っておりますが、講師の李振溪先生の教え方は上手い、というのが、継続して受講している受講生共通の認識で、私もそう思います」といった感想があったことが挙げられる。以上の三つを総じていえば、本中国語講座の受講生にとっては概ね満足のいく、楽しい講座であったと思われる。

一方、先ほど言及したアンケート調査で、「初心者も入学してきており、継続受講されていますので、入門講座も再開していただくと嬉しいです。」と、また「ネット、パソコンを利用しないので、担当の講師には何かとご迷惑、ご負担をおかけしたのは申し訳なく思う。講師は、事前に応募者のレベルを知ることなく教材の準備をされていると思うので、受講期間の間の教え方に苦慮されたと思う。授業はほとんど中国語で進められるのでよい勉強になる。有難い。一回ぐらい自由討論（テーマは事前に連絡）の時間があっても良いと思う。」といった声が上がっていた。そのなかで異なるレベルの受講生が同じクラスで学習することへの不満を感じるのは特に問題であろうが、本学の公開講座がより一層周辺の地域社会に感謝される存在になりうるために、こういった問題についてできる限り真剣に取り組んでいくことを切に願う。

(秋期)

本学秋学期中国語の公開講座は、春学期に続き李振溪先生が講師として担当し、内容が以下の通りである。(1)講座の定番となっているが、秋の漢詩(唐・韋応物の《秋夜》、清・王士禎の《江上》)と冬の散文(郁達夫の《江南的冬景》)を詠んだ。(2)受講生からのリクエストにより、中国の小学校・中学校・高校の国語教科書に採用されている文章(小・中学校で取り上げたのは簡易版と原本の《生命 生命》(杏林子著)、高校で取り上げたのは上記の郁達夫の散文)について朗読体験をした。(3)中国語の新聞記事(2018年7月17日《人民日報海外版》の〈別让“狗趣”成为“狗患”〉(『「犬愛」を「犬害」にしない!』(本文作者訳))、シェイクスピアの「光るものすべて金ならず」、「どんなに長くとも夜は必ず明ける」などの世界の名劇台詞の中国語訳、『ロミオとジュリエット』の中国語脚本の一部を紹介した。

講座では、とりわけ上述の中のペット事情(犬の新聞記事)に関しては、受講生たちが熱心に話し合われたというほほえましい場面があり、また受講生たちがロミオとジュリエットの中国語脚本の一部を読んでみたところ、その難しさを体感できたようだ。

講座の受講生は多方面にわたるメンバーで構成されており、電気エンジニアもいれば、入国管理局で働く職員や、中国に駐在経験のある社員もいた。さらに20年ぶりの方が受講に来たり、出産直前の新人が入ったりしていたので、受講生一同の励ましになったようだ。熱心な中堅メンバーが開講2週目頃の放課後に学食で茶話会を開催し、新人たちにクラスに溶け込むように協力してくれ、講座恒例となる終了後の打ち上げパーティは、成増公民館の料理教室を借りて楽しく餃子作りを体験し、盛大だったとのことだ。

難しい内容も、単語と簡単な会話レベルに落とし込んで教え、異なるレベルの受講生に

自分なりの成長を感じられるよう工夫したという李先生の指導の甲斐があって、本講座終了時のアンケート調査で「この講座の講師である李振溪先生は、とても研究熱心で、講義も上手だと思います。貴学以外の他の中国語教室にも通学しておりますが、李先生以上の講義には巡りあえていません」とのコメントが寄せられている。また、受講生からの要望として、異なる曜日での開講や、1年間コースの開講などを望み、地域社会に貢献する本学公開講座の今後の検討事項にしたい所存である。

2018年秋 跡見女子大学公開講座 風趣を楽しむ中国語 修了



成増公民館で餃子作りパーティ



朝鮮・韓国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部コミュニケーション文化学科

講師 吉田 さち

(春期)

2018 年度春期公開講座は、「朝鮮・韓国語中級」コースが開講された。講座名は「楽しく学ぶ韓国語会話」である。昨年度の秋期公開講座に引き続き、中級コースが開講された。ご担当頂いたのは、昨年度の公開講座に引き続き、本学兼任教員の荻野千尋先生である。講座の目的は、日常会話で実際によく使われる表現に慣れ、身につけることであり、授業内容は、「週末」、「趣味」、「自分の経験」といった身近なテーマに沿って、これと関連する文法と表現、語彙などについて学んでゆくものである。

講座の受講生は 9 名であり、そのうち、約半数は、以前から継続されていた方とのことだ。荻野先生によると、今回のクラスでは、クラス内での語学力の差が大きかったという。約半分はハン検 4 級(トピック 2 級)レベルで、それ以上の受講生もいた一方で、5 級レベルに少し届かない受講生もいたそうだ。そのため、会話を覚えての発表などの活動を取り入れるのが難しかったとの報告を受けた。5 級レベルに少し届かないレベルの受講生の方は、今回のコースを終えるまでに実際に相当伸びたようである。これは先生の熱心なご指導とご本人の予習等の努力によるものだろう。クラス内での語学力にばらつきがある点は授業運営にも影響を及ぼすので、今後の課題と考えられる。

次に、受講生へのアンケートについてみていく。受講生の約 7 割はリピーターとすることで、一度参加すると本学から案内が送られることもあり、参加しやすくなるようだ。「この講座を受講して、内容について興味や関心が

深まりましたか。」という質問に対しては、回答者全員が「深まった」と回答しており、満足度の高さがうかがえる。自由回答欄には、「独学だとひとりよがりの学習となりますが、今回の講座では、発音、会話が主体なので良かったと思います。辞書なども引かなければならないので勉強になります。」などの講座に対する好意的な意見が寄せられていた。

(秋期)

2018 年度秋期公開講座は、「朝鮮・韓国語中級」コースが開講された。講座名は「楽しく学ぶ韓国語会話」である。ご担当頂いたのは、春期公開講座に引き続き、本学兼任教員の荻野千尋先生である。

講座の目的は、「日常会話で実際によく使われる表現に慣れ、これを身につける」ことである。「ショッピングしたり荷物を送ったり、両替をしたりなど、旅行で実際に役立つ表現や会話」に焦点が当てられた内容になっている。

受講生は 6 名で、内訳は、2 回目以上の受講生 3 名と初めての受講生 3 名であった。荻野先生によると、半数は学習歴が長かった(最長 20 年)とのことである。どの受講生も熱心で、ペアワークの際には、学習歴が長い受講生とそうでない受講生を組ませて練習に取り組んでもらったそうだ。学習歴が長い受講生も他の受講生に分かりやすく教えることにより、学習効果が生まれたものと思われる。

最後の授業では、テキストの会話文(両替の場面)を暗記して教室の前で発表する時間を設けたが、受講生は達成感を感じていた様子が見られたそうだ。

次に、受講生へのアンケートの結果を見ていく。日程に関しては、開講時期、開講時間帯(土曜午後)、講義時間について全員が「適切であった」と答えている。開講回数についても 6 名中 5 名は「適切であった」と回答している。今回の受講生においては現状の日程

に満足いただけたようである。

講義内容に関しては、「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか。」という質問に、全員が「深まった」と回答している。内容についても満足頂いたことが伺える。難易度についても6名中5名は「適切であった」と答えている。

公開講座は、学習者同士の交流の場になっており、最終回には打ち上げが行われたとのことだ。荻野先生によると、受講生と話した折に、文法説明や文型練習よりも会話により特化した内容へのニーズが高いという印象を受けたそうである。

パソコンコース

春期(新座キャンパス):平成30年4月21日、28日、5月12日(各土曜日)〈全3回〉

秋期(文京キャンパス):平成30年11月17日~12月1日(毎週土曜日)〈全3回〉

〈春期〉

はじめての本格的ホームページ作成入門

(スマートフォン対応)

元本学文学部人文学科教授 福田 博同

4月21日、28日、5月12日と連休を挟んだ3回で「ホームページ作成」入門を行いました。SNS やスマートフォンの普及で若干需要は減りましたが、会社等ではやはり本格的なホームページ作成は必須です。そこでは、仕組みの理解、SNS との違い、視覚や聴覚に不自由な人々のためのコミュニケーション手段の理解が必要です。具体的には、W3C の「アクセシビリティ指針」に基づいた「JIS X8341-3」の実現方法などです。また、初めてパソコンを操作する人々のため、キーボードや音声による日本語入力の方法、単語登録の方法なども実習しました。実習そのものは見本のページをコピーして修正する、やさしいホームページ作成入門です。写真取り込み、絵を描き、BGM を入れ、Microsoft Excel からの表データ変換など、最新の HTML5 による本格的なホームページを作りました。HTML5 であれば、PC にもスマートフォンにも対応しています。さて、3 回すべてに受講された方でアンケートの回答は 24 人で 60 代以上が 44%、老眼・弱視の方が 63%でした。以下事前調査で、作ったことがない、使ったことがない、苦手の多い順に記します①ホームページ作成したことがない 96%②マイク入力したことがない 83%、③ブログしたことがない 79%、④音楽ソフト、動画ソフト使ったことがない 75%、⑤静止画ソフト使ったことがない 58%、⑥単語登録したことがない 54%、⑦Power Point 使ったことがない 46%、ショートカットキーしたことがない 46%、⑧Microsoft Excel 使ったことがな

い 4%、キーボード入力が苦手 1 人(4%)でした。

実習内容は次の通りです。基礎編：「PC 起動と終了」、「ショートカットキー」、「フォルダの作り方」、「日本語入力」、「CD-RW のコピーと保存」、「単語登録」、「ホームページの仕組み」、「HTML の特徴とタグ」。実践編：「HTML5 文書の実践」、「スタイルシートの実践」、「図の描き方」、「図や写真の HTML 化」、「音声や BGM の作り方」、「音声や BGM の HTML 化」、「ブログ」、「Excel データの HTML 化」。

事後調査です。①初めて受講 63%、②この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか?深まった 96%、③開講回数は適切だった 63%、少ない 13%、④講義時間は適切だった 83%、⑤難易度は?易しかった 21%、適切 29%、難しかった 46%、⑥配布資料、スライドは?適切 96%、少なかった 8%でした。

YouTube 教材や、ティーチングアシスタント 4 名を含め、分かりやすい実習を心掛けました。本格的なホームページ作成は仕組みの理解から実践へと、事後アンケート⑤にあるように、内容的には難しいのです。しかし、理論でなく、実習では教材や教え方について「わかりづらい」と答えた方は 17%以下と少なかったのですが、今後はさらに、これらの改善を行いたいと思っております。絵を描いたり、音声を作ったりの実習では喜びの声も聞きました。最後に以下のように利用者の声がありました。☆「初めての内容も多かったので、ついていけるか最初は心配でした。オペレーションについてはついていけたので難易度は適切だったと思いますが、少し進行が遅く、もっと色々学べたのではないかと思うと残念でした。ですが、新しいことを学ぶのは楽しかったです。ありがとうございます

た。」、★「根本でわからない事が多かった
ので、家に帰っても復習ということも出来な
くて、身に付きにくかった。」、☆「アシス
タントの方がとても親切に教えてくださいま
した。有難うございました。」

〈秋期〉

Excel入門

本学兼任教員 柴田 徹

秋期公開講座パソコンコースは、平成30年
11月17, 24日, 12月1日の3回(各土曜日, 1
回180分)にわたって、文京キャンパスにおい
て開催されました。公開講座の担当は、昨年
の同コース(平成29年11月11, 18, 25日の3
回(各土曜日, 同))に続いて3度目, 3回
開講になってからは2度目です。本講座にお
いては、Excelの初心者向けに、簡単な数式や
関数, グラフ等が扱える程度まで到達するこ
とをめざして、基本的な操作の説明と演習を
行いました。

今回は、前回までの反省をもとに、①募集
リーフレットにおける受講対象の明確化, ②
USBメモリの持参についての事前連絡, ③初回
におけるテキストの一括配布, の3つを試み
ました。受講対象を明確にした効果があった
のか、今回は、受講者の経験・スキルの足並
みが一定程度揃っており、従来よりも円滑に
講座を進めることができたように思います。

テキストの内容構成は、表1(稿末)の通
りです。前回とほぼ同じです。受講者の経験・
スキルの状況から判断して、初回は6章
「Excel 2010を操作する前に」(2016に読み
かえ)から始めました。

講座の進め方は、前回同様、一斉説明の後
の個別演習という形を基本にしました。しか
し、どうしても各自の進度にばらつきが出て
しまうため、各回のすべての演習課題を冒頭
で配布した上で、すでに一定のスキルを持つ
受講者に対しては、説明を待たずに、先々の

課題に取り組んでよいと指示しました。逆に、
課題が思うようにこなせず、全体から遅れを
とっている受講者に対しては、説明は聞いた
上で、引き続き自分のペースで焦らずに、未
完了の課題に取り組んでよいと指示しました。
一連の演習課題には、前回同様、全員必須の
ものと、取り組み任意の発展的な内容のもの
が含まれます。

例外的に、最も基本的な操作を扱う7章だ
けは、内容を一まとめにした実習形式のワー
クシートを、指示にしたがって受講者が一斉
に操作する形で進めました。

最終回(3回目)は、遅れている受講者に
配慮して、新規の内容を少なめに設定すると
ともに、他の受講者が手持ち無沙汰になら
ないよう、演習課題の質と量で調整を図りま
した。また、今後の学習の参考にして頂くた
めに、簡単な家計簿の作成例も配布しまし
た。

毎回のことながら、一斉説明においては、
声の聞きやすさ、話す速度、画面の見やすさ、
内容の理解のしやすさ等に、特に気を配りま
した。また、机間・個別指導においては、1
人1人の知識・理解・スキルの程度、視力・
聴力(高齢者の場合)等に応じた、理解しや
すい、懇切丁寧な対応を心がけました。

今回の講座は、76人の応募があり、抽選で
10~90代までの男性14人、女性24人、計38
人の受講者が選ばれました。この中には、わ
かっただけでも、他大学の女子学生が2人、
含まれていました。2人が通う大学において
は、当該科目は、毎回人気の抽選科目とな
るようで、なかなか履修が叶わないのだそ
うです。他にも何人か、他大学の女子学生
とおぼしき受講者を見かけました。

他に、生涯学習の一環として応募された
方や、仕事で使うからという理由で応募
された方が、各年代においてみられました。
大学卒業後、しばらくExcelを使っていな
かったから(忘れてしまったから)という理
由で応募された方もおられました。なお、
ご夫婦、親子、

友人同士等、ペアでの受講も目立ちました。

受講者の中には、前回同様、基本的な操作・取り扱いの習得段階で足踏みをされ、課題がなかなかこなせないでいる方がおられました。他方で、今回は、IF関数の入れ子（ネスト）や、データの入力規則（ドロップダウンリスト）、文字列操作（&演算子、LEFT、RIGHT関数）等を含んだ一連の発展課題を、テキストを参考にしながら、黙々とこなして行く方もおられました。演習の合間には、仕事で使いたいのので、第2縦軸のあるグラフの作成方法を教えて下さいという方もおられました。これについては、テキストでは取り上げていませんでした。一様ではないにしろ、受講者の皆様の向学心、向上心には、毎回のことながら頭が下がります。

すでに述べた通り、今回は、受講者の経験・スキルの足並みがほぼ揃っていたことから、比較的円滑に講座を進めることができたように思います。アンケートの結果をみても、必ずしも悪くはない印象です。多少のご祝儀相場感は否めないものの、全員が「また受講したい」と回答して下さったことには、スタッフを代表して、心より御礼申し上げます（前回91.3%）。

以下、アンケートに寄せられたご意見等に対して、いくつかコメントを付しておきます。

- ▶ **アクセス講座ができたなら／情報関係の講座を開催して**：本学においても、以前はAccessの基礎的な内容を扱う科目があり、私も担当者の1人でした。ご要望が高まれば、検討されることがあるかもしれません。パソコン関連の講座は、春期にも開講しているようです。
- ▶ **資料が冊子のタイプになっていたら**：おっしゃる通り、使いやすいただろうと思います。とはいえ、冊子体にするには一定の経費がかかるでしょうから、現状では、必ずしも容易ではないだろうとも思います。
- ▶ **先生のご説明がとても丁寧でわかりやすく**

／スタッフの方にも丁寧に教えていただき：私はさておき、今回も経験豊富で優秀なアシスタント陣に助けられました。お役に立てたならば幸いです。

▶ **もう少しゆっくり／スピード感もあり／ゆっくり丁寧に教えていただいて（中略）ためになり**：毎回どうしても、速い、遅い、ちょうど良いという、3つの異なるご意見を頂きます。全員のペースに完全に合わせることは、おそらく不可能だろうと思います。しかし、受講者の皆様ができるだけ理解しやすくなるように、講座の進め方については、今後も引き続き検討してまいります。

▶ **仕事の効率化を考えていた時期に（中略）この講座で教わった内容を基に**：入門的な内容が中心でしたので、おっしゃる通り、今後はご自身で、さらなるスキルアップを試みて頂きたいと思います。

▶ **先生の声がアナウンサーみたいで心地よかった**：近年、声音から若さが失われつつあることを、本人はひしひしと感じております。聞きづらいというご指摘ではなかったのが安堵致しました。ありがとうございます。

▶ **グラフがかけ足だったので**：大変失礼致しました。所要時間の見積もりを誤り、おっしゃる通り駆け足での説明・演習となってしまいました。ご指摘、真摯に受け止めます。

皆様のご意見等に目を通しながら、今後は、受講対象のさらなる明確化（もしくは経験・スキル別のサブコースの設置＝前回提案済み）や、文書作成、データベース、プログラミング、Web制作等、内容の異なる複数のパソコンコースの開講（もしくはサブコースの設置）、使用テキストの形態等といった諸課題について、いずれか1つでも、無理のない範囲で検討されてよいようにも思いました。

全3回を通して、受講者の皆様が何か1つでも得るものがあつたとすれば、嬉しく思います。同時に、もしそうであつたならば、本

講座の意味は、多少なりともあったのではないかと考えます。

今回も、前回に引き続き、知識・経験ともに豊富な4人のアシスタントの、行き届いた、きめ細かなサポートに助けられました。教務課、情報サービス課の皆様には、色々ご配慮、お骨折りを頂きました。責任講師の本学文学部現代文化表現学科准教授・伊藤穰先生には、これまで同様、色々ご指導頂きました。皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。機会があれば、また是非お声がけ頂きたいと思います。

最後に、受講者の皆様、お付き合い頂きまして本当にありがとうございました。全3回、楽しく過ごすことができました。感謝申し上げます。

表1 テキストの内容構成

回・ページ	内容 (章題)
第1回 pp.1-29	1. 本学のパソコン (コンピュータ) のタイプ 2. パソコンの起動・ログオン・終了 (シャットダウン) 3. マウスの基本操作 (標準設定 [右利き用] の場合) 4. ウィンドウの基本操作 (※) 5. ファイルとフォルダの基本操作 6. Excel 2010 を操作する前に 7. データの入力, 編集, 表示方法 (※) 8. セルの書式設定, ワークシートの操作, ウィンドウ枠の固定と解除等 (※)
第2回 pp.30-55	9. ワークシートの設定, 印刷の設定等 (※) 10. 演算と参照, 簡単な関数 (※) 11. 条件判断 (論理関数の利用), データの並べ替え 12. データの入力規則, 条件付き書式, データの検索・置換 (※) 13. 条件付き関数, 縦方向への検索 (※) 14. 文字列の演算 (※)
第3回 pp.56-67	15. 3-D集計 (串刺し集計) (※) 16. グラフの作成・編集 章外 講座終了後の質問等

(※印には、全員必須ではない発展的な内容も含む)

『世界遺産の矛盾』

春期教養コース（文京）受講生
齊藤 和明さん

- ・世界遺産の対象は「有形の不動産」と限定されている。
- ・とすれば、例えば教会の祭壇に安置されている「キリスト像」や、寺院の奥深く鎮座する「釈迦如来像」は、その教会や寺院そのものが世界遺産であったとしても、これら「キリスト像」や「釈迦如来像」は、「動産」ゆえに、その対象では無い事になる。
- ・「キリストがあつての教会」「本尊を中心とした寺」という『精神空間～祈りの空間』を、世界遺産が否定して見せているかのようである。「キリストの居ない教会」「本尊の居ない寺院」を世界遺産として崇めなければならないのである。
- ・「キリスト像」「本尊」を何故に否定するのか？その否定された「モノ」の為に（為だけに）集う人々を嘲笑うかのような制度（規約）がとても理解出来ない。私が世界遺産に今一つ納得出来ないのは、ここなのである。再考を伏して願うものである。
- ・世界「文化」遺産として、ことさら「文化」を標榜するのであればなおの事。

文化の再発見

秋期教養コース（新座）受講生
瀧上 浩司さん

服をとりあえず着ている、神社やお寺を巡るのが好きでよく行く、深く考えずに食事をする。

こういう私が文化的な価値に触れて心の豊かさを感じる機会としての受講となりました。

第1回は身にまとう芸術文化。一つは色で、赤色は情熱、青色は落ち着き、黄色は社交的、緑色は安心感、紫色は癒し、茶色はやすらぎといったイメージや、大きく見える膨張色・

小さく見える収縮色、どちらにも属さない中間色といった心理効果についてでした。

もう一つは柄で、中世で縞模様は売春婦や受刑者、死刑執行人、道化師などが身につけていたため“異端のシンボル”であったが、アメリカが自由の象徴として国旗に縞模様を入れたことがフランスにも影響し、ついに縞模様は「革命」や「反骨精神」、そして「自由」を象徴するものへと移行していったという意味の変容についてでした。

第2回は信仰と芸能文化。私は山之神社の富士塚のような薄暗い参道を上り、豊鹿島神社の手水の作法を見て、賽銭箱が無い出雲祝神社で扉周辺に置いてと神社空間をよく知っているつもりでしたが、今回のテーマは何と神楽で、宮廷の御神楽（みかぐら）に対し民間で演じられる里神楽（さとかぐら）を知り、24年の隔たりがある『大和古寺風物誌』（1943年）が『古寺巡礼』（1919年）と同じ地平上で奈良を論じていることを知りました。

第3回は食卓から見る習俗文化。私はドーナツ・フライドポテト・フライドチキンなどの洋食を食べるようになり、辛い物や脂っこい物が好きである若者を問題視していたのですが、和食にも食塩が多い、動物性たんぱく質の摂取量が少ない、脂質の摂取量が少ないといった問題があり、昔ながらの和食の良さに洋食を加えた健康食を摂ることが健康につながるのとのことでした。

公開講座をきっかけに色のイメージ+色の心理効果を感じる、拝殿・鳥居以外の付属物にも目を向ける、一汁三菜を基本に「欧米型」の食材や食習慣を上手に取り入れるというように生活の質を向上させられたらと考えます。

教養講座「文化の再発見」

秋期教養コース（新座）受講生
飛和田 明さん

第1回 身にまとう芸術文化（深町浩祥）を受講して

「将来的な文化都市の有り方について」

この度は、貴方の本学の公開講座を受講しました事に、とても貴重な経験をしたと思いました。また、第1回目の受講に際して、「身にまとう芸術文化」というテーマで、深町浩祥准教授の指導を頂きました事を胸に抱き、今後の社会生活上の教訓にしたいと思いました。

特に、「文化」という言葉の響きより創造されます事は、芸術に関する事でありますが、講義の内容より、服（アパレル）業界の流行やデザインについて、指導内容が、新規性+新近性を併せ持つ商品を生み出し、消費、経済活動を促進する為に、とても必要な事項であると受け取る事が出来ました。

また、次項に際しては、伝統文化とファッションの関連性を見るにつけ、例えば、「アメリカの独立とフランス革命」時の内容として、アメリカの「自由」の象徴とフランスの「反骨精神」、そして、「自由」を象徴するものへと移行するその国旗の縞模様のデザインが、とても印象的な内容に受け取れました。

そして、「芸術文化の捉え方」として、伝統文化の誇りとして、尊ばれる人物に、「エルザ・スキヤパレリ」という方がいらしたそうですが、その有名な名句に、「衣服は、建築と同じように、構築的でなければならない」という言葉が有ります。とても当意を得た素晴らしい名句であると思いました。

第2回 芸能による愛の信仰について

前回に続きまして、第2回目の講座を受けさせて頂きました。前回以上に講座内容に関心を持って、興味深く講義を受けることが出来たと思います。

まず、清水康宏講師の匠な話術が、とても印象的な「信仰と芸能文化」というタイトルに相応しい講義を目の当たりにして、とても感動したものです。

「宗教」と「芸術/芸能」の境界で発生する問題とは？何かという事ですが、「文化」とは、如何なるものか？について、「芸術」や「知的活動」としての「文化」と捕え、また、「文化財産」と置き換えて、歴史的、学術的、芸術的な価値の高いものとして、「文化的、教養的」な視点の必要を強く求めている事が、よく理解出来ました。

それに付随することで、「生人形と松本喜三郎」展での「お賽銭事件」というものに、関心が向けられた事も、大変興味深いものでした。それは、「美術館の仏像」と「お寺の仏像」との存在性における境界を問うもので、「美術品」として仏像と、「信仰の対象」として仏像は、これ程までに価値観に境界が有るものであるという事に、気が付きました。

そして、仏像が、いつから「美術品」としての価値を見出すことになったのかという事については、岡倉天心による法隆寺夢殿の秘仏、救世観音像の開扉に起源を発し、文化財保護や「古寺保存法」公布に至る経緯を見て、大変勉強になりました。

さらに、「神殿」が、「信仰儀礼」か「民俗芸能」かについても、触れていました。

「民俗芸能」としての一大転機である「文化財保護法」改正によって、「文化財」としての祭礼の位置づけがされた事に、とても感激致しました。

第3回 貴重な経験より習俗文化を語る

本日は、新座キャンパスでの秋期教養コースの第3回目の講座「食卓から見る習俗文化」を表題に、講師である天海 弘先生の講義を拝聴させて頂きました。

まず、「人間と食」という事ですが、パス

カル「人間は考える葦である」という有名な語を用いて、「人間は、自然の中では、小さな生き物にすぎないが、考えることによって宇宙を超えるというパスカルの哲学者としての宣言を表している。それは、人間に無限の可能性を認めると同時に一方では、無限の中の消えゆく小粒子である人間の有限性をも受け入れている。」という説明文によって示されています。

また、食文化は、人間は、「料理」をし「共食」をする動物であると定義し、習俗文化の象徴である食卓形式の移り変わりを、はこ膳→チャブ台→テーブルと変わっていったと説明しています。

そして、「和食」が、ユネスコ無形文化遺産へ登録される講義をされました。「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」を「和食、日本人の伝統的な食文化」と題し、ユネスコ無形文化遺産に登録されたと有ります。和食の四つの特徴は、(1) 多用で新鮮な食材とその持ち味の尊重 (2) 健康的な食生活を支える栄養バランス (3) 自然の美しさや季節の移ろいの表現 (4) 正月などの年中行事との密接な関わりである事を示しています。「和食」は、健康食であるかという問いには、ユネスコ無形文化遺産への登録理由に、健康的な食であることが、挙げられています。

次の問題として、食生活の変化が、寿命の延長した大きな原因になっていますが、食生活はどのように変わったかを講義しています。

また、昔の食事の問題点を、1. 食塩が多い。2. 動物性たんぱく質の摂取量が少ない。3. 脂質の摂取量が少ないという三点を指摘しています。食品摂取の変化をグラフより見て、乳製品の日本人の一日摂取量が、時代を経過し、現在に至る迄に、急激に多くなっている事が読み取れます。

最後に、「健康食」を定義付けて、和食+洋食の要素=健康食としている事に、目を見

張りました。

映画の中の、もう一つの人間関係

秋期教養コース（文京）受講生
瀧上 浩司さん

映画監督と小学校の先生、女優とファッションデザイナー、アニメーション演出家・アニメーターと映画プロデューサー。映画から見えてくる人間関係が今回のテーマでした。

第1回は黒澤明作品に描かれた実人生の子弟関係。人間エゴイズムを鋭く批判した『羅生門』、損得関係なしに人助けをする『七人の侍』が代表作ですが、今回は生徒には自分らしく好きなことをさせて、生徒の良い所を引き出そうという立川精治先生との出会いが基盤になっている作品を紹介しました。『姿三四郎』は柔道を志して上京した青年が、師や周囲の人々の指導の下、技のみならず人間としても成長していく様を描いた青春ドラマ。『赤ひげ』は江戸時代の小石川養生所を舞台に、そこを訪れる庶民の人生模様と通称赤ひげと呼ばれる所長と青年医師の心の交流を描く。『まあだだよ』は内田百間の随筆を元に、戦前から戦後の彼の日常と教え子たちとのやり取りを描いた作品。台詞が聞き取りにくい箇所がありますが、素晴らしかったです。

第2回は映画と女優、そしてファッションデザイナー。くびれたウエストでほっそりした体つきのヘップバーンが『麗しのサブリナ』でサブリナが帰郷するシーンを象徴する、ウエストをきゅっと絞ったグレーのダブルジャケットを着て、『ティファニーで朝食を』でブラックのカクテルドレスを着ると、ヘップバーンの映画でジバンシィが衣装を担当した映画は8本にもわたります。二人の友情を感じました。

第3回は高畑勲、宮崎駿と東映動画の仲間たち。赤川孝一は満洲で映画教育に携わり、戦後東映映画が満洲人脈によって成立した。

『白蛇伝』（日本初の長編カラーアニメ）を作成したが、この映画を観た宮崎駿がアニメ界に入るきっかけとなった。『太陽の王子 ホルスの大冒険』は高畑勲の監督作品で宮崎駿が制作に携わった。こうして見ると宮崎駿がジブリで監督した10作品中、5作品は戦争や兵器が作品に登場する事情が分かります。

公開講座で映画を単に面白いだけでなく、何らかの形で関わる人に共感できて良かったです。

魅力的な人間関係の創造性と表現力としてのデザイン感覚を養う心得

秋期教養コース（文京）受講生
飛田和 明さん

この度は、十二月十五日（土）に、跡見学園女子大学公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）が、講師富川淳子氏によって講義されました。また、文学部中に、「現代文化表現学科」という学問の分野が有る事を、私自身、無知なゆえに知りませんでした。と、苦境たる心境の時に、「文化表現」の言葉が、心を勇気付けてくれるという思いを感じました。

そして、講義の内容たるものは、映画関係、主演女優、そして、ファッションデザイナーを務められた一九二六年生まれで、東京女子大学の出身である森英恵氏の名前を上げられ、大変な御苦労をし、自己研鑽に務められる中で、映画に出演する俳優に対する衣装デザイナーとしての視点を着実に養われていったのではないかと思います。

次に、語る所、これからの映画観客及び主役は、女性達であると言い、女性を蔑ろにして、映画産業は、成り立ち得ないとし、彼女達は、映画館にやって来る理由として、2つの理由を上げ、一つは、スター（演技者）を見る為に、もう一つは、自己観照ですが、自身の将来性を夢見る為にと添え書きしたいと

思います。

そして、フランス革命の英雄たる「ジャンヌ＝ダルク」という映画を上げて、一九二九年創設の映画アカデミー賞より、一九四八年には、衣装デザイン賞という大変に、素晴らしい賞を受賞されています。

また、オードリー＝ヘップバーンという映画女優は、「俳優達は、衣装無くしては、演技する事が出来ない。」という名言を言われたとも講義されました。不思議な感じのする魅力的な用語に「オートクチュール※」という用語がありますが、これは、映画の登場人物のファッション性が、三つの部門に分けられて、衣装部スタッフ及び衣装専門デザイナーやファッションデザイナーという専門家の方々の働きによって成り立っている事を知る事が出来ました。

そして、映画女優としてのジパンシーとオードリー＝ヘップバーンは、御互いが持ちつ、持たれずに関係し合って、オートクチュールのファッション界の代表女優として、映画界をリードして活躍された事を如実に語っている所に、この講義の焦点があったと思いました。オードリー＝ヘップバーンとジパンシーと映画との関係については、「ジパンシーが、オードリー＝ヘップバーンのイメージ作りに果たした役割の大きさは、映画監督のそれに、匹敵する程のもので、当時のヘップバーンを他の若い女優達から際立たせていたのは、彼女が、自身の魅力を衣装や演技力によって上手に表現していたからではなかったかと思いました。

また、日本活動映画会社等の五社協定の講義が語られ、石原裕次郎の主演映画「太陽の季節」では、良家の子女を演じる南田洋子のファッション性への評価がされていました。

「青い麦の衝動」という映画の紹介では、「失われた世代の明日なき青春」という言葉より、青春時代を取り戻そうとして、奮闘するという場面を私自身も心に捕らえる事が、出来ま

した。「銀座の恋の物語」という映画の紹介においては、銀座の洋裁店の御針子役である女優浅丘ルリ子氏の服を「おしゃれスタッフ」という名目で担当したとの講義内容に触れました。そこには、男性の眼に映る女性らしさという視点が、印象深く語られました。

総評として、「喜びと幸せ」という感覚を映画監督やファッションデザイナーである方々から学ぶことが出来る事が、何よりであったのではなかったかと思いました。

講座受講の感想レポート

春期パソコンコース（新座）受講生 渡邊 博之さん

新座パソコンコースに参加でき嬉しく思います。無料でこういう機会が与えられたことにとっても感謝しています。5月12日受講終了しました60歳、渡邊博之です。豊富な知識をお持ちの先生から高齢者でパソコンも慣れてない方にわかりやすく教える3日間はご苦労があったと存じます。短期間で伝えることには限界がある中でトライされていることが素晴らしいと思っています。私は自分のサイト去年の暮、初めて作成して公開しました関係で受講参加していろいろと気づくことができましたのでご報告させていただきます。

第一回4月21日に受講された感想はたぶん難しいと思った方が多くいらっしゃると思います。私が考える原因は、サイト作成に全く知識もない方が参加している為です。

サイト作成の簡単な仕組みを最初に述べているとずいぶん受講生の気持ちも変わったと思います。

そこで提案をさせていただきます。

PCを触る前に仕組みの説明をします。

「PCの中にメモ帳を出し一行か二行文字を打ち保存します。適当な名前を付けて保存

した場合のアイコンされた表示と index.html の名前で保存した場合のアイコンされた表示の違いを認識させてから index.html ファイルをグーグルサイトにドロップすることで打ち込んだ内容が表示されます。これは自分のパソコンしか見ることができませんがあとは、このファイルを自分が契約したサーバー業者にアップしたら世界中の人があなたのその内容を知ることができます。」そういった具合に最初に人の心を掴ませることで難しさよりも希望なり勇気のほうが勝り頑張れる気持ちになったと思います。

私が目からうろこがあったのがhtml ファイル編集方法でウインドウズ10での編集しづらさを感じていたのですがメモ帳にhtml ファイルをドロップするやり方を受講で知り、なんだ！こんなに簡単にできることに驚きました。エクセルのWebにアップの仕方も勉強になりました。

講座にはないのですが自分が撮影した動画の設定の仕方も知りかけたのですが時間的にも聞く余裕もなかったのもそういう機会があればと思っています。

跡見学園女子大学 教務部教務課 担当
皆様ありがとうございました。

■ 資料



ATOMI UNIVERSITY

平成30年度 春期

跡見学園女子大学の公開講座のご案内

時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切り)

平成30年
6/23~7/7
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

教養コース(文京キャンパス)

20世紀末の観光を回顧する

テーマパーク、聖地巡礼、世界遺産

一市民、一金融人として振り返る

6/23 [土] **テーマパーク編 浦安市民熱望の「夢の国」誕生秘話**

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功

鉄道愛好者の筆者は幼くして鉄系遊園地・阪神パーク・宝塚に親しみ、高校で悪評給々の奈良ドリームランドに遭遇、勤務先全盛機関と京成電鉄との奇縁で空き地だらけの広漠たる埋立地・浦安に在住、市民招待日に念願のTDL開園に立ち会った。一市民、一金融人として見詰めて来た巨大テーマパーク形成を回顧する。

映画や文学を背景に日本と世界の主要都市を紹介

6/30 [土] **聖地巡礼編**

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 松坂 健

聖地巡礼というとアニメオタクの専売品と思われるかもしれませんが。ちょうど「君の名は。」で四谷須賀神社やJR飛騨吉川駅とかがブームになったように。でも、映画や文学の背景になったところを訪れて、オリジナル作品の風合いを楽しむ習慣は今に始まった話ではありません。たとえば、昭和30年代初期には、松本清張の大ベストセラー「ゼロの焦点」のクライマックス、能登金満を訪れる人が多く、後の能登観光の原点になっています。この講演では、聖地巡礼の枠をうんと広げ、日本各地から世界の主要都市まで、これは！と思う聖地を紹介。観光とミステリ、映画を等しく楽しんで来た軌跡をご一緒にどうぞ。

観光対象としての重要性を知る

7/7 [土] **世界遺産編**

講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 種田 明

1990(平成2)年、文化庁は都道府県別の「近代化遺産総合調査」を開始。その後1992年、国会が「世界遺産条約」を批准するや世界遺産は一気にブームとなり、観光対象としての重要性を増しました。1992/94年、「文化的景観、20世紀建築、産業遺産」が新たな遺産カテゴリになり、「世界の記憶」(95)「世界ジオパーク事業」(01)「無形文化遺産」(03)などとともにユネスコの文化遺産・事業と観光は軌を一に発展してきました。本講は、1990~2008年(観光庁発足)の世界遺産に関連する状況を振り返ります。

教養コース ●全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
受講者特典 ●今学期(平成30年9月末日まで)内に限り本図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー

申込方法
受付期間

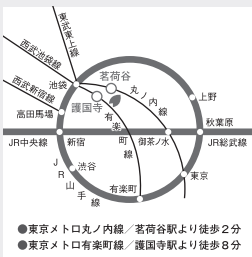
申込方法 往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ① [20世紀末の観光を回顧する]受講希望 ④ 電話番号
- ② 氏名(フリガナ) ③ 郵便番号・住所
- ⑤ 性別 ⑥ 年齢 ⑦ 職業
- ⑧ どちらで本講座をお知りになりましたか?
- ⑨ 次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 4月3日(火)より受付(定員になり次第締切り)

※受講申込み受付後、書害にて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内



<申込・照会先>



跡見学園女子大学 文京キャンパス事務局 公開講座係

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

申込方法
受付期間

教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
① [映画の中の、もうひとつの人間関係]受講希望 ② 氏名(フリガナ) ③ 郵便番号・住所
④ 電話番号 ⑤ 性別 ⑥ 年齢 ⑦ 職業 ⑧ どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨ 次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月24日(金)より受付(定員になり次第締切り)

パソコンコース

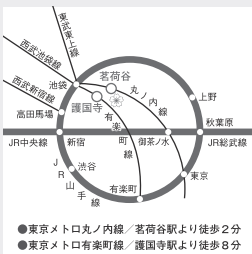
往復はがき下記事項をご記入の上お申し込みください。
① [Excel入門(文京)]受講希望 ② 氏名(フリガナ) ③ 郵便番号・住所
④ 電話番号 ⑤ 性別 ⑥ 年齢 ⑦ 職業 ⑧ どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨ 次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 10月1日(月)~11月7日(水)必着

※教養コースは、受講申込み受付後、書害にて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内

※駐車場がないため、自家用車のご来校はご注意ください。



<申込・照会先>



跡見学園女子大学 ATOMI UNIVERSITY

文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/



跡見学園女子大学

平成30年度 秋期

跡見学園女子大学の公開講座のご案内

教養コース (文京キャンパス) **映画の中の、もうひとつの人間関係**

時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切り)

※全3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(平成31年3月末日まで)内に限り本図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

平成30年
12/8~12/22
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

12/8 [土]

黒澤明作品に描かれた実人生の子弟関係

講師：元キネマ旬報編集長 植草 信和

世界的な映画監督黒澤明は黒田清舟小学校で映画の才能を認められた立川精治先生に「生涯の師」と仰ぎました。そして黒澤監督は監督デビュー作「姿三四郎」、代表作「赤ひげ」、遺作「まあだだよ」で、立川先生の薫陶がいに業績50年ものであったかを、物語の中に織り込んだのです。それらの黒澤作品を通して人生における「師弟の絆」を考察していきます。

12/15 [土]

映画と女優、そしてファッションデザイナー

講師：本学文学部現代文化表現学科教授 雷川 淳子

初公開から半世紀以上たった今なお輝き続けるシネマを生み出したオーディオ・ヘッパバーンとユルベール・ジバンシー。今回はこの2人の関係のほか、ジャンヌ・モローとガリエル・シャネル、浅丘ルリ子や吉永小百合、北原三枝と森英恵など、女優とデザイナーの関係に注目して映画を紹介いたします。

12/22 [土]

高畑勲、宮崎駿と東映動画の仲間たち

講師：本学文学部現代文化表現学科講師 渡邊 大輔

昨年で誕生から100年を迎えた日本のアニメの立役者が、スタジオジブリの宮崎駿、高畑勲であることはよく知られた通りです。もくもくの作ってきた作品は、その出発点となった「東映動画」で出会ったさまざまな仲間アニメーターたちとの切磋琢磨の結果、生み出されたものでした。今回の講演では、彼らの濃密な人間関係を辿りながら、それらが作品の物語や表現にどのような影響を与えていたかを中心にお話しします。

パソコンコース (文京キャンパス) **Excel 入門**

講師：本学兼任教員 柴田 徹
時間 13:00~16:10 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 38名

※全3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(平成31年3月末日まで)内に限り本図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

平成30年
11/17~12/1
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

11/17 [土]
11/24 [土]
12/1 [土]

本講座では、「Wordは使えるけれど、Excelはほとんど(または、まったく)使ったことがない」という方を対象に、操作の基本、表の作り方、数式や関数を使った計算のやり方などの基本を、講義と実習を通して、懇切に指導します。本講座の学習を通して、Excelで簡単な数式や関数、グラフなどが扱えるまでになります。
※Word、Excelは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商品名または登録商標です。

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー



平成30年度 春期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

平成30年
5/19~6/2
毎週土曜日
〈全3回〉

「ことば」や「記憶」から幸せに生きるための工夫を探る
教養コース
心理学が教える
幸せのヒント

平成30年
4/21・28・5/12
各土曜日
〈全3回〉

老眼や目の不自由な人も利用できるホームページを作ろう
パソコンコース
はじめての本格的ホームページ作成入門
スマートフォン対応

平成30年
5/19~7/21
毎週土曜日
〈全10回〉

日常会話力を修得したい方へ
語学コース
英会話／中国語会話
朝鮮・韓国語会話

後援／埼玉県教育委員会・新座市教育委員会

申込方法
受付期間

教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①心理学が教える幸せのヒント 受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(火)より受付(定員になり次第締切)
※教養コースは、受講申込受付後、実書にて受講証を郵送いたします。

パソコンコース

往復はがきに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「パソコンコース」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(火)～4月12日(木) 必着
※パソコンコースは、応募者多数の場合は抽選となります。

語学コース(英会話／中国語会話／朝鮮・韓国語会話)

往復はがきに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①希望講座名(例:英会話中級A) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(火)～5月7日(月) 必着
※語学コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内内他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

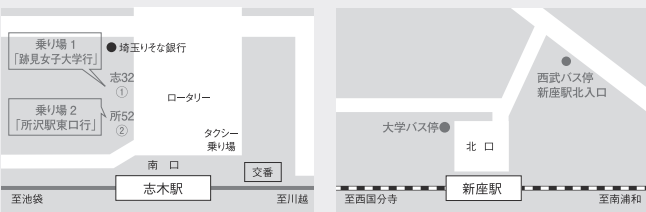
※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)

「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見学園女子大学」下車

●JR武蔵野線

「新座駅」下車 北口よりバス約7分



●西武線
「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

<申込・照会先>

跡見学園女子大学
教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http:// www.atomi.ac.jp/univ/

跡見学園女子大学の春期公開講座

人生が幸せになるコツを知り、語学やパソコンを修得して充実した毎日を過ごす。

教養コース

平成30年5月19日、26日、6月2日 毎週土曜日〈全3回〉

時間 13:00~14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 100名 受講料 無料

心理学が教える幸せのヒント

5/19(土)

第1回 「コミュニケーション」がひも解く幸せのヒント

講師:本学心理学部臨床心理学科教授 酒井 佳永
友人関係、夫婦関係、親子関係、職場の人間関係...わたしたちの日常生活にはさまざまな対人関係がつきものです。この公開講座では、心理学の領域で研究されてきたコミュニケーションに関わる様々な理論や技法をヒントに、対人関係のストレスを減らし、より幸せになるコツを学んでいきましょう。

5/26(土)

第2回 「ことば」がひも解く幸せのヒント

講師:本学心理学部臨床心理学科講師 前場 康介
「明日の会議、気が重いなあ...」「オレってダメなやつだなあ...」などなど、私たちは常日頃から頭の中で、色々なことを思っています。そして、これはしばしば出口のない「悩み」につながっていきます。ことばがもたらす様々な影響をうまくかわして、幸せに生きるためにはどのような工夫があるのでしょうか。今回は、このことについて考えてみたいと思います。

6/2(土)

第3回 「記憶」がひも解く幸せのヒント

講師:本学心理学部臨床心理学科講師 新井 雅
みなさんはこれまでの人生の中で、様々な体験・エピソードを「記憶」していると思います。思い出して幸せな気持ちになる記憶もあれば、あまり思い出したくない記憶もあるかもしれません。以前は嫌だと思っていた苦い体験が、今では「良い思い出」だと感じる場合もあるでしょう。これらの記憶はどれも人生を豊かに生きていくための大切な資産なのです。本講座では、みなさん一人ひとりの「記憶」を手掛かりに、幸せに生きるためのヒントを体験してみましょう。

教養コース受講者特典

- 全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

パソコンコース

平成30年4月21日、28日、5月12日 各土曜日〈全3回〉

時間 13:00~16:10 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 38名 受講料 無料

はじめての本格的
ホームページ
作成入門
スマートフォン対応

分かりやすいホームページを作ろう

講師:元本学文学部人文学科教授 福田 博樹
見本のページをコピーして修正する、やさしいホームページ作成入門です。写真取り込み、絵を描き、BGMを入れ、Microsoft Excelからの表データ変換など、最新のHTML5による本格的なホームページを作ります。

パソコンコース受講者特典

- 全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

平成30年5月19日~7月21日 毎週土曜日〈全10回〉

時間 ①13:00~14:30/②14:40~16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

【中級A】 Britain Past and Present;
understanding contemporary Britain in the light of its past.

講師:本学兼任教員 John Oliphant

This course offers a chance to learn more about the people and events that have shaped British society. We shall look at extracts from documentaries, films and television programs that help us understand the background to what is happening in Britain. British customs will be examined and we will explore the differences between country and city life and discuss aspects of British society such as land ownership, royalty and the aristocratic lifestyle as portrayed in Downton Abbey. We will also assess Britain's contribution to literature, music and fashion and talk about the contemporary problems of educational and gender inequality, immigration and Brexit.

【中級B】 Developing discussion skills by exploring global issues.

(時間②) 講師:本学文学部コミュニケーション文化学科助教 Colin Macleod

Global issues affect most nations, but cannot be solved by any single nation, thus demonstrating our increasing interdependence. This class will explore global issues that affect our lives today and we will consider possible solutions. Students will prepare for class by evaluating their current knowledge about each topic and then reading to supplement that knowledge. This will encourage interesting and challenging discussions in class, with students bringing a range of facts and opinions to share with their classmates. The teacher will recommend a range of online resources, including freely-available documentaries, which will help students to engage with each topic.

中国語会話

【中級】 風流・情趣をたのしむ中国語(春夏編)

(時間①) 講師:本学兼任教員 李 振漢

様々な角度から中国語を覚えたい、習った中国語や文化知識を活かして、中国人と交流したい。こんな方はぜひ本講座に参加し、新旧の友人と一緒に語学力に磨きをかけ、中国理解の輪を広げましょう!

朝鮮・韓国語会話

【中級】 楽しく学ぶ韓国語会話

(時間②) 講師:本学兼任教員 荻野 千尋

ハングル文字や発音の基礎を習得し、より会話を身につけたい方を対象とした講座です。週末や趣味、自分の経験など身近なテーマについて日常的な対話能力を習得するのが目標です。韓国語独特の発音やリズム、イントネーションを感じながら、話す力をほす10週間を過ごしませんか。

語学コース受講者特典

- 開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

※語学コースの各講座の詳細内容は本学ホームページをご覧ください。



跡見学園女子大学
ATOMI UNIVERSITY

平成30年度 秋期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

申込方法 受付期間

教養コース

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「文化の再発見」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月24日(金)より受付(定員になり次第締切)

語学コース(英会話/中国語会話/朝鮮・韓国語会話)

往復はがき・FAX・Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①希望講座名(例:英会話中級Aコースなど) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月24日(金)～9月19日(水) 必着

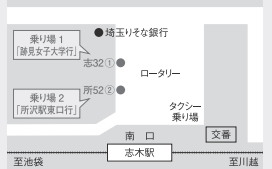
※教養コースは、受講申込み受付後、到着にて受講証を郵送いたします。
※語学コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
※お申し込み頂いた方々の個人情報、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)

「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見学園女子大学」下車



●JR武蔵野線

「新座駅」下車 北口よりバス約7分



●西武線

「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

<申込・照会先>



跡見学園女子大学

ATOMI UNIVERSITY

教務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

平成30年

10/13

10/27

毎週土曜日
<全3回>

平成30年

10/6

12/15

11月3日は除く
各土曜日
<全10回>

身にまとうモノ、食、信仰から考える

教養コース

文化の再発見

—生活環境における芸術・芸能・習俗

文化を理解し会話力を身につける

語学コース

英会話/中国語会話

朝鮮・韓国語会話

共催/新座市教育委員会(教養コースのみ)

後援/埼玉県教育委員会・新座市教育委員会・埼玉まなびプロジェクト協賛事業

跡見学園女子大学の秋期公開講座は教養コースと語学コース

教養コース

平成30年10月13日～10月27日 毎週土曜日<全3回>

時間 13:00～14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 100名(定員になり次第締切) 受講料 無料

文化の再発見

—生活環境における芸術・芸能・習俗

10/13[土]

身にまとう芸術文化

講師: 本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 深町 浩祥

わたしたちは日々の生活の中で衣服を纏うだけでなく、装身具、スマートフォンにいたるまで、さまざまなモノを身にまっています。日常の中で気づくのはむづかしいのですが、実は、それらのモノは世界の芸術文化を反映したメッセージを発信しているのです。身にまとうモノたちに隠された芸術文化の発見の旅に出ましょう。

10/20[土]

信仰と芸能文化

講師: 東京大学附属図書館アジア研究図書館特任研究員 清水 康宏

日本の神様が登壇して舞を披露する「神楽」という行事があります。これは神社で行われる宗教儀礼ですが、民俗芸能としても楽しんでいます。なぜ「神楽」に対してこのような二つの見方が出てるのでしょうか? 「文化」という言葉をキーワードに、儀礼と芸能の「境界」を考えてみましょう。



10/27[土]

食卓からみる習俗文化

講師: 本学マネジメント学部生活環境マネジメント学科准教授 天海 弘

家族で囲む食卓は家庭の習俗文化の象徴といっても過言ではありません。本公開講座では家庭の食文化の変遷を食卓の変化(ちゃが台からダイニングテーブルへ)、食自体の変化(純和食から洋食の取り込みへ)から取り上げ、家族や生活の変化について考えてみたいと思います。

教養コース受講者特典

- 全3回全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成31年3月末日)までに限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

平成30年10月6日～12月15日(11月3日は除く) 各土曜日<全10回>

時間 ①13:00～14:30/②14:40～16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

中級A The British Imagination;
(時間①) the work of British artists, writers and film makers that has had an impact on the world.

講師: 本学兼任教員 John Oliphant

This course aims to develop the language skills of listening, reading and discussion while enjoying some of the wonderful examples of the British imagination at work. The course will introduce some of the great works of literature, art and the cinema produced in Britain and also includes examples of creativity in science and warfare and even in crime, some imaginative famous British murder cases.

中級B “What Do You Think?”
(時間②) 講師: 本学兼任教員 Patrick Rates

This course is to provide participants an interesting, educational insight and discussion into popular cultural topics through topic discussion. The class will emphasize student involvement and discussion. Each class we will discuss a different aspect of popular culture or current topic. We will explore popular social, political, historical, and economic contexts of popular culture through various media forms, genres, theories, movements, subcultures, practices, and products.

中国語会話

中級 風流・情趣を楽しむ(秋冬編)
(時間①) 講師: 本学兼任教員 李 振漢

中国語の基礎と中国文化をもっと知りたい。バラエティな角度から中国語を覚えたい。習ったことを活かして、中国人と交流したい。中国語検定に挑戦してみたい。こんな方はぜひ参加して、中国理解の輪を広げよう!

朝鮮・韓国語会話

中級 楽しく学ぶ韓国語会話
(時間②) 講師: 本学兼任教員 荻野 千尋

ハングル文字や発音の基礎を習得し、より会話力を身につけたい方を対象とした講座です。ショッピングしたり荷物を送ったり、再訪をしたりなど、旅行で実際に役立つ表現や会話を学んでいきます。韓国語の発音やイントネーション、リズムを感じながら声に出してみましょう。韓国語や韓国にもっと興味が増すかもしれません。

※各講座のシラバスについては、大学HPを参照してください。

語学コース受講者特典

- 開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成31年3月末日)までに限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

公開講座ダイジェスト 2018
跡見学園女子大学公開講座の記録

平成 31 年 3 月発行

発 行 跡見学園女子大学

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2

電話 03(3941)7420

FAX 03(3941)8333

E-mail d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp

URL <http://www.atomi.ac.jp/univ/>
